

6. 飼料作物・牧草

(1) 飼料用とうもろこし

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
アルファード液剤	雑草茎葉散布又は全面散布	とうもろこし 3～7 葉期 (但し、収穫 45 日前まで)	1 回 (トプラメゾン 1 回)	
エコトップ P 乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前 (雑草発生前)	1 回 (ジメナミト [®] 及びジメナミト [®] P1 回、リニロン 1 回)	
クリアターン乳剤	全面土壌散布	は種直後 (雑草発生前)	1 回 (ベンチカーブ [®] 1 回、ペンデイメタリン 1 回、リニロン 1 回)	
ゲザプリムフロアブル	全面土壌散布及び雑草茎葉散布	は種後～とうもろこし 2～4 葉期まで	1 回 (アトラジン 1 回)	
ゴーゴーサン乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前 (雑草発生前)	1 回 (ペンデイメタリン 1 回)	
シャドー水和剤	雑草茎葉散布又は全面散布	一年生及び多年生広葉雑草 2～5 葉期 (とうもろこし 3～5 葉期)	1 回 (ハロスフロメチル 1 回)	
ワンホープ乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	とうもろこし 3～5 葉期 (但し、収穫 30 日前まで)	1 回 (ニコスフロム 1 回)	

・参考農薬

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
クリアターン細粒剤 F	全面土壌散布	は種直後 (雑草発生前)	1 回 (ベンチカーブ [®] 1 回、ペンデイメタリン 1 回、リニロン 1 回)	
ゲザノンゴールド	全面土壌散布	は種後発芽前 (雑草発生前) 生育期 (とうもろこし 2～4 葉期)	1 回 (アトラジン 1 回、メトラクロール及び S-メトラクロール 1 回)	
ゴーゴーサン細粒剤 F	全面土壌散布	は種後出芽前 (雑草発生前)	1 回 (ペンデイメタリン 1 回)	
ハーモニー 7 5 D F	雑草茎葉散布又は全面散布	飼料用とうもろこし 2～4 葉期 (雑草生育期)	1 回 (チフェンスフロメチル 1 回)	
ブルーシアフロアブル	雑草茎葉散布又は全面散布	とうもろこし 3～5 葉期 (但し、収穫 45 日前まで)	1 回 (トルビラレート 1 回)	
		とうもろこし 6～7 葉期 (但し、収穫 45 日前まで)	1 回 (トルビラレート 1 回)	
バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	雑草茎葉散布又は全面散布	生育期 (但し、収穫 50 日前まで)	1 回 (ベンタゾン 1 回)	
モーティブ乳剤	全面土壌散布	は種後～とうもろこし 2 葉期 (イネ科雑草 2 葉期まで)	1 回 (ジメナミト [®] 及びジメナミト [®] P1 回、ペンデイメタリン 1 回)	
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	飼料用とうもろこし出芽前まで (雑草生育期)	2 回以内 (グリサート 2 回以内)	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

(2) ソルガム

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ゲザプリムフロアブル	全面土壌散布及び雑草茎葉散布	は種後（雑草発生前～始期）	1 回（アトラジン 1 回）	
ゴーゴーサン細粒剤 F	全面土壌散布	は種後出芽前（雑草発生前）	1 回（ペンデイメタリン 1 回）	
ゴーゴーサン乳剤	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	ソルガム 3 葉期（雑草発生前～発生始期）	1 回（ペンデイメタリン 1 回）	
	全面土壌散布	は種後出芽前（雑草発生前）		
タッチダウン i Q	雑草茎葉散布	耕起又はは種前（雑草生育期）	2 回以内（グリホサート 2 回以内）	

・参考農薬

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ゲザノンゴールド	全面土壌散布	は種直後	1 回（アトラジン 1 回、メトラクロール及び S-メトラクロール 1 回）	
バサグラン液剤(ナトリウム塩)	雑草茎葉散布又は全面散布	生育期（但し、収穫 30 日前まで）	1 回（ベンタグロン 1 回）	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

(3) 牧草

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
アージラン液剤	雑草茎葉散布又は全面散布	ワラビ展葉期	1 回（アシュラム 1 回）	牧野、草地（更新・造成）
	雑草茎葉散布又は全面散布	秋～春期（9 月～5 月）ギンギン類の展葉時期（但し、採草 14 日前まで）		牧野、草地
	雑草茎葉散布（局所処理）	早春～秋期（1 月～11 月）ギンギン類の展葉時期		牧野、草地
ハーモニー 7 5 D F	雑草茎葉散布又は全面散布	採草 21 日前まで（雑草生育期） 新播草地定着後（但し、採草 21 日前まで）	1 回（チフェンスルフロメチル 1 回）	牧野、草地
バンバレー D 液剤	雑草茎葉散布	秋期最終刈取後 30 日以内	1 回（MDBA1 回）	牧野、草地

・参考農薬

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	耕起整地後～は種当日まで（雑草発生前期）	3 回以内（グリホサート 3 回以内）	牧野・草地（更新・造成）
		耕起前まで（雑草生育期）		

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 適用場所を備考欄に記載した。

ア 飼料作物・牧草雑草防除体系（薬剤使用量は10a当り）

飼料用とうもろこし	1 一年生雑草 ＜播種直後＞		
	ゲザプリムフロアブル	200mℓ	
	クリアターン乳剤	600～700mℓ	
	エコトップ P 乳剤	400～600mℓ	
	ゴーゴーサン乳剤	200～400mℓ	
	クリアターン細粒剤 F	4～5kg	
	ゴーゴーサン細粒剤 F	5～6kg	
	ゲザノンゴールド	140～260mℓ	
	モーティブ乳剤	200～400 mℓ	
	2 イチビ発生ほ場 （パターン 1～3 は「(2) 除草剤の使用方法」参照）		
	(パターン 1)		
	＜播種直後＞	＜とうもろこし 3 葉期＞	＜とうもろこし 5 葉期＞
	ゲザノンゴールド 260mℓ	ワンホープ乳剤 150mℓ	アルファード液剤 100～150mℓ (収穫 45 日前まで)
	(パターン 2)		
	クリアターン乳剤 600～700mℓ エコトップ P 乳剤 400～600 mℓ ゴーゴーサン乳剤 200～400mℓ	ゲザノンゴールド 260mℓ	シャドー水和剤 50～75g
	(パターン 3)		
	＜播種直後＞	＜とうもろこし 4 葉期＞	
	ゲザノンゴールド 260mℓ →	ワンホープ乳剤 150mℓ	
	3 アレチウリ発生ほ場		
	＜播種直後＞	＜とうもろこし 4 葉期＞	
	ゲザノンゴールド 260mℓ →	ワンホープ乳剤 150mℓ	
	4 オオブタクサ発生ほ場		
	＜播種直後＞	＜とうもろこし 3～5 葉期＞	
	ゲザノンゴールド 140～260mℓ エコトップ P 乳剤 400～600 mℓ クリアターン乳剤 600～700mℓ	アルファード液剤 100～150mℓ (収穫 45 日前まで) バサグラン液剤 100～150mℓ (収穫 50 日前まで)	
	多発生ほ場		
	＜播種直後＞	＜とうもろこし 3 葉期＞	＜とうもろこし 3～5 葉期＞
	エコトップ P 乳剤 400～600 mℓ クリアターン乳剤 600～700mℓ	ゲザノンゴールド 140～260mℓ	アルファード液剤 100～150mℓ (収穫 45 日前まで) バサグラン液剤 100～ 150mℓ (収穫 50 日前まで)

飼料用とうもろこし	5 雑草生育期(飼料用とうもろこし出芽前まで) <とうもろこし出芽前、雑草生育期> ラウンドアップマックスロード 200～500ml + <とうもろこし出芽後、雑草生育期> 中耕培土 (イネ科及び広葉雑草) ゲザノンゴールド 140～260ml (広葉雑草) バサグラン液剤 100～150ml ゲザプリムフロアブル 200ml
飼料用ソルガム	1 一年生雑草 <播種直後> ゴーゴーサン乳剤 300～400ml ゴーゴーサン細粒剤 F 4～5kg ゲザプリムフロアブル 200ml ゲザノンゴールド 140～260ml 2 雑草量が多い場合 <播種直後> <div style="display: flex; align-items: center;"><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;">ゲザプリムフロアブル 200ml ゲザノンゴールド 140～260ml</div><div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">→</div><div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><div style="text-align: center;"><ソルガム 3 葉期> ゴーゴーサン乳剤 300ml バサグラン液剤 100～150ml (収穫 30 日前まで)</div></div></div>
	3 雑草生育期(播種前まで) <耕起又は播種前> タッチダウン i Q 250～500ml

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
牧野・草地	1-1 アージラン液剤 50～80 倍液、局所散布、早春～秋期(1～11 月)ギシギシ類の展葉時期											
	1-2 アージラン液剤 400～600ml、散布、秋～春期(9～5 月)ギシギシ類の展葉時期(採草 14 日前まで)											
牧野・草地	2 バンベル-D 液剤 100ml、秋期最終刈取後 30 日以内											
牧野・草地	3 ハーモニー75DF 3～5g、雑草生育期(但し、採草 21 日前まで)											
牧野、草地(更新・造成)	1 耕起前まで(雑草生育期)											
	一年生及び多年生雑草 ラウンドアップマックスロード 200～500ml											
	2 耕起整地後～は種当日まで(雑草生育前期)											
	一年生及び多年生雑草 ラウンドアップマックスロード 200～500ml											
牧野、草地(更新・造成)	3 新播草地定着後(但し、採草 21 日前まで)											
	ギシギシ類(草丈 20cm 以下) ハーモニー75DF 0.5～1g											
牧野、草地(更新・造成)	4 ワラビ展葉期											
	ワラビ アージラン液剤 1000～1500ml											

イ 除草剤の使用法

作物名等	防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a 当り使用量	使用法	注意事項
飼料用とうもろこし	は種後出芽前（雑草発生前）、全面土壌散布	一年生雑草	エコトップ P 乳剤 (ジメナミト P8.5% リニロン 12%) 400～600ml	1. 水 100ℓ に溶かし 噴霧機で均一散布する。	1. 覆土は 3 cm 位に丁寧に行い土壌面をなるべく平滑にする。 2. 砂土では使用しない。 3. 散布直後に多量の降雨が予想される場合は散布を延期する。 4. 年 1 回のみの使用とする。 5. ゴーゴーサンはキク科雑草及びツユクサに効果が劣るのでこれら雑草の優占ほ場では使用しない。 6. モーティブ乳剤は、雑草の生育が進むと効果が劣るので時期を逸しないように散布する。
	は種直後（雑草発生前）、全面土壌散布		クリアターン乳剤 (ベンチカーブ 50% ペンデイメタリン 5% リニロン 7.5%) 600～700ml		
	は種後～とうもろこし 2～4 葉期まで、全面土壌散布、雑草茎葉散布		ゲザプリムフロアブル (アトラジン 45%) 200ml		
	は種後出芽前（雑草発生前）、全面土壌散布		ゴーゴーサン乳剤 (ペンデイメタリン 30%) 200～400ml		
	は種後発芽前（雑草発生前）、全面土壌散布		〔参考農薬〕 ゲザノンゴールド (アトラジン 27.8% S-メ トラクロール 26.4%) 140～260ml		
	は種後～とうもろこし 2 葉期（イネ科雑草 2 葉期まで、全面土壌散布）		〔参考農薬〕 モーティブ乳剤 (ジメナミト P19.7% ペンデイメタリン 23.1%) 200～400 ml		
	は種直後（雑草発生前）、全面土壌散布		〔参考農薬〕 クリアターン細粒剤 F (ベンチカーブ 8% ペンデイメタリン 0.8% リニロン 1.2%) 4～5 kg	1. 散粒機等で均一散布する。	1. 覆土は 3 cm 位に丁寧に行い土壌面をなるべく平滑にする。 2. 砂土では使用しない。 3. 散布直後に多量の降雨が予想される場合は散布を延期する。 4. 年 1 回のみの使用とする。 5. ゴーゴーサンはキク科雑草及びツユクサに効果が劣るのでこれら雑草の優占ほ場では使用しない。 6. クリアターン及びゴーゴースンの細粒剤では、土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣る。
	は種後出芽前（雑草発生前）全面土壌散布		〔参考農薬〕 ゴーゴーサン細粒剤 F (ペンデイメタリン 2%) 5～6 kg		

作物名等	防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a 当り使用量	使用法	注 意 事 項
飼料用とうもろこし	とうもろこし 3～5 葉期、但し、収穫 45 日前まで、雑草茎葉散布又は全面散布	一年生雑草	アルファード液剤 (トフラメゾン 3.6%) 100～150ml	1. 水 100～150ℓ に溶かし噴霧機で均一散布する	1. 年 1 回のみの使用とする。 2. 雑草が大きくなりすぎると効果が劣ることがあるので、時期を逸しないようにし、均一に散布する。
	とうもろこしの 6～7 葉期、但し、収穫 45 日前まで雑草茎葉散布又は全面散布		アルファード液剤 (トフラメゾン 3.6%) 150ml	1. 水 100～150ℓ に溶かし噴霧機で均一散布する。	1. 年 1 回のみの使用とする。 2. 雑草が大きくなりすぎると効果が劣ることがあるので、時期を逸しないようにし、均一に散布する。
	とうもろこし 3～5 葉期、但し、収穫 30 日前まで、雑草茎葉散布又は全面散布		ワンホープ乳剤 (ニコスフロ 4%) 150ml	1. 水 70～100ℓ に溶かし噴霧機で均一散布する。	1. 年 1 回のみの使用とする。 2. 雑草の生育が進むと急激に除草効果は低下する。 3. 感受性品種には使用しない。本剤に適用できる品種は、「ワンホープ乳剤の適用品種一覧」(https://ibj.iskweb.co.jp/product/application02/264/)を参照。 4. アレチウリは、生育が進むと効果が低下するので、とうもろこし 4 葉期までに処理する。
	生育期(とうもろこし 2～4 葉期)、全面土壌散布		〔参考農薬〕 ゲザノンゴールド (アトラジン 27.8% S-メトラクロール 26.4%) 140～260ml	1. 水 100ℓ に溶かし噴霧機で均一散布する。	1. イネ科雑草に対して葉齢が進むと効果が劣り 4 葉期(展開葉)以後は効かないので撒き遅れない。 2. アトラジン又は S-メトラクロールを含む薬剤の使用は年 1 回とする。 3. 降雨が予想される場合は散布を延期する。
	とうもろこし 3～5 葉期、但し、収穫 45 日前まで、雑草茎葉散布または全面散布		〔参考農薬〕 ブルーシアフロアブル (トリピラレート 10.4%) 40～50ml		1. 年 1 回のみの使用とする。 2. 雑草が大きくなりすぎると効果が劣ることがあるので、時期を逸しないようにし、均一に散布する。
	とうもろこし 6～7 葉期、但し、収穫 45 日前まで、雑草茎葉散布または全面散布		〔参考農薬〕 ブルーシアフロアブル (トリピラレート 10.4%) 50～75ml		

作物名等	防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a 当り使用量	使用法	注 意 事 項
飼 料 用 と う も ろ こ し	とうもろこしの生育期、但し、収穫 50 日前まで 雑草茎葉散布又は全面散布	一年生雑草 (イネ科を除く)	〔参考農薬〕 バサグラン液剤 (ベンザンナトリウム塩 40%) 100～150ml	1. 水 70～100l に溶かし噴霧機で均一散布する。	1. 年 1 回のみの使用とする。 2. 晴天時散布の効果が高く、散布後数時間以内に降雨に遭遇しないように天候を見計らって使用する。 3. イネ科雑草には効かない。
	雑草生育期(とうもろこし 2～4 葉期)、雑草茎葉散布又は全面散布	ギシギシ	〔参考農薬〕 ハーモニー 75DF (チフェンスルフロメチル 75%) 2g	1. 水 100l に溶かし噴霧機で均一散布する。	1. 有機リン系殺虫剤との混用および 7 日以内の近接散布は、薬害を生じることがあるので避ける。
	イチビ 2～5 葉期、とうもろこし 3～5 葉期(但し、収穫 45 日前まで)、雑草茎葉散布又は全面散布	イチビ	アルファード液剤 (トプラメゾン 3.6%) 100～150ml	1. 水 100～150l に溶かし噴霧機で均一散布する。	1. 年 1 回のみの使用とする。 2. 雑草が大きくなりすぎると効果が劣ることがあるので、時期を逸しないようにし、均一に散布する。
	イチビ 2～5 葉期(とうもろこし 3～5 葉期)、雑草茎葉散布又は全面散布 は種直後土壌処理と 4 葉期の体系処理		シャドー水和剤 (ハロスルフロメチル 5%) 50～75g	1. 水 100l に溶かし噴霧機で均一散布する。	1. 年 1 回のみの使用とする 2. イチビ以外の雑草には効果が弱いので他の雑草が多い場合は使用しない。 3. 処理直後激しい降雨が予想される場合薬害を生じる恐れがある。
	は種直後土壌処理と、とうもろこしの 3 葉期と 5 葉期の体系処理		(パターン 1) <は種直後> 〔参考農薬〕 ゲザノンゴールド (アトラジン 27.8% S-メトラクロール 26.4%) 260ml <とうもろこし 3 葉期(但し、収穫 30 日前まで)> ワンホープ乳剤 (ニコスルフロ 4%) 150ml <とうもろこし 5 葉期(イチビ 2～5 葉期)> アルファード液剤 (トプラメゾン 3.6%) 100～150ml シャドー水和剤 (ハロスルフロメチル 5%) 50～75g		1. ワンホープ処理後黄変の認められる場合がある。 2. 感受性品種には使用しない。本剤に適用できる品種は、「ワンホープ乳剤の適用品種一覧」(https://ibj.iskweb.co.jp/product/application02/264/)を参照。 3. パターン 1 は、は種直後にゲザノンゴールドを全面土壌散布し、とうもろこし 3 葉期にワンホープ、5 葉期にアルファードまたはシャドーをそれぞれ雑草茎葉散布する。

作物名等	防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a 当り使用量	使用法	注意事項
飼料用とうもろこし	は種直後土壌処理と、とうもろこしの3葉期と5葉期の体系処理	イチビ	<p>(パターン2) <は種直後> は種直後に以下の3剤のうちいずれかの除草剤を土壌処理する。</p> <p>①クリアターン乳剤 (ベンチカーブ 50% ペンデイメタリン 5% リニユロン 7.5%) 600～700ml</p> <p>②エコトップ P 乳剤 (ジメナミト P8.5% リニユロン 12%) 400～600ml</p> <p>③ゴーゴーサン乳剤 (ペンデイメタリン 30%) 200～300ml</p> <p><とうもろこし3葉期> [参考農薬] ゲザノンゴールド (アトラジン 27.8% S-メトラクロール 26.4%) 260ml</p> <p><とうもろこし5葉期> (イチビ2～5葉期) アルファード液剤 (トプラメゾン 3.6%) 100～150ml</p> <p>シャドー水和剤 (ハロスフロメチル 5%) 50～75g</p>	<p>1. 水 100～150ℓに溶かし噴霧機で均一散布する。</p>	<p>1. パターン2は、は種直後にクリアターン、エコトップP、ゴーゴーサンのうち、いずれか1剤を全面土壌散布し、とうもろこし3葉期にゲザノンゴールド、5葉期にアルファードまたはシャドーをそれぞれ雑草茎葉散布する。</p>
	は種直後土壌処理と4葉期の体系処理		<p>(パターン3) <は種直後> [参考農薬] ゲザノンゴールド (アトラジン 27.8% S-メトラクロール 26.4%) 260ml</p> <p><とうもろこし4葉期(但し、収穫30日前まで)> ワンホープ乳剤 (ニコスフロシ 4%) 150ml</p>	<p>1. 水100ℓに溶かし噴霧機で均一散布する。</p>	

作物名等	防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a 当り使用量	使用法	注意事項
飼料用とうもろこし	飼料用とうもろこし出芽前まで(雑草生育期)、雑草茎葉散布	一年生及び多年生雑草	[参考農薬] ラウンドアップマックスロード (グリホサートカリウム塩48%) 200～500ml	1. 通常散布では水50～100lに、少量散布では水25～50lに溶かし、噴霧機で均一散布する。	1. 農作物や有用作物に薬液が付着すると、激しい薬害を生じるので、飛散しないよう十分注意して散布する。 2. 少量散布(25～50l)では、専用ノズルを使用する。 3. 処理後4時間以内の降雨は、除草効果を低下させることがあるので、天候をよく見極めて散布する。 4. 泥などで濁った水は、除草効果を低下させるので、薬液の調剤には用いない。 5. 当剤は茎葉処理剤であるため、使用は場の草種に有効な土壌処理剤又は他の茎葉処理剤との体系防除を行う。 6. ラウンドアップマックスロードは、魚毒に注意する。
飼料用ソルガム	は種後出芽前(雑草発生前)、全面土壌散布	一年生雑草(但し、キク科雑草、ツユクサは除く)	ゴーゴーサン乳剤(ペンディメタリン30%) 300～400ml	1. 水100lに溶かし噴霧機で均一散布する。	1. は種深度は3cm程度とし、種子が露出したような状態では使用しない。 2. 適応土壌は、砂壤土～埴土である。 3. スーダングラスでは、薬害が著しいため使用しない。 4. キク科雑草とツユクサには効果が劣るので、これら雑草の優占は場では使用しない。 5. 激しい降雨が予想される時には使用を避ける。 6. 桑に飛散しないよう注意する。 7. 砕土整地はていねいに行う。 8. ペンディメタリン剤の使用は、同一は場では年1回とする。 9. ゴーゴーサンでは、雑草の生育が進むと急激に除草効果が低下するので、ソルガム3葉期(展開葉)までに処理する。 10. 全面土壌散布は、土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣る。
			ゴーゴーサン細粒剤F (ペンディメタリン2%) 4～5kg	1. 散粒機又は手で均一散布する。	
	ソルガム3葉期(雑草発生前～発生始期)、雑草茎葉散布又は全面土壌散布		ゴーゴーサン乳剤(ペンディメタリン30%) 300ml	1. 水100lに溶かし噴霧機で均一散布する。	

作物名等	防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a 当り使用量	使用法	注意事項
飼料用ソルガム	は種後、雑草発生前～始期、全面土壌散布及び雑草茎葉散布	一年生広葉雑草（但し、キク科雑草、ツユクサは除く）	ゲザプリムフロアブル (アトラジン 45%) 200ml	1. 水 100ℓ に溶かし噴霧機で均一散布する。	1. 覆土はていねいに行い、種子が露出したような状態では使用しない。 2. 砂土では使用しない。 3. 散布直後に多量の降雨が予想される場合は使用を避ける。 4. 砕土、整地はていねいに行う。 5. 本剤の使用は、同一ほ場では年 1 回とする。
	は種直後、全面土壌散布	一年生雑草	〔参考農薬〕 ゲザノンゴールド (アトラジン 27. 8% S-メトラクロール 26. 4%) 140～260ml	1. 水 70～100ℓ に溶かし噴霧機で均一散布する。	1. 覆土はていねいに行い、種子が露出したような状態では使用しない。
	耕起又は、は種前、雑草生育期、雑草茎葉散布		タッチダウン i Q (グリホサートカリウム塩 44. 7%) 250～500ml	1. 水 25～50ℓ に溶かし噴霧機で均一散布する。	1. 農作物や有用作物に薬液が付着すると、激しい薬害を生じるので、飛散しないよう十分注意して散布する。 2. 専用ノズルを使用する。 3. 処理後 4 時間以内の降雨は、除草効果を低下させることがあるので、天候をよく見極めて散布する。 4. 泥などで濁った水は、除草効果を低下させるので、薬液の調剤には用いない。 5. 茎葉処理剤であるため、使用ほ場の草種に有効な土壌処理剤又は他の茎葉処理剤との体系防除を行う。 6. タッチダウン i Q は、魚毒に注意する。
	ソルガム生育期（但し、収穫 30 日前まで）、雑草茎葉散布又は全面散布	一年生雑草（イネ科を除く）	〔参考農薬〕 バサグラン液剤 (ベンタゾンナトリウム塩 40. 0%) 100～150ml	1. 水 80～100ℓ に溶かし噴霧機で散布する。	1. 年 1 回のみの使用とする。 2. 晴天時散布の効果が高く、散布後数時間以内に降雨に遭遇しないように天候を見計らって使用する。 3. イネ科雑草には効かない。

作物名等	防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a 当り使用量	使用法	注意事項
牧野、草地（維持・管理）	秋～春期（9月～5月）ギンギン類の展葉時期（採草14日前まで）、雑草茎葉散布又は全面散布	ギンギン類及びキク科の雑草	アーザラン液剤（アシュラム 37%） 400～600ml	1. 水 80～100ℓに溶かし噴霧機で散布する。	1. 本剤は遅効性であり、効果は徐々に現れる。 2. 牧草の生育が衰えている時や、造成後日数が短い時は使用を避ける。 3. 降雨が予想される場合は散布を延期する。 4 有用植物に飛散したり、水田等流れ込まないように注意する。
	早春～秋期（1月～11月）ギンギン類の展葉時期、雑草茎葉散布（局所処理）		アーザラン液剤（アシュラム 37%） 50～80 倍液とし雑草が充分ぬれる量、1 株当り 25 ml 又は 1 m ² 当り 100 ml	1. 所定倍率の薬液を、雑草が充分ぬれるように散布する。	
	雑草生育期（但し、採草 21 日前まで）、雑草茎葉散布又は全面散布	ギンギン類及び一年生広葉雑草	ハーモニー75DF（チフェンサルフロメチル 75%） 3～5g	1. 水 100ℓに溶かし噴霧機で茎葉散布する。	1. 処理後 6 時間以内に多量の降雨があると十分な効果が期待できないので天候に注意する。 2. 処理後 21 日以上経過すれば牧草体内で分解されるので、牧草の利用時期は処理後 22 日以降とする。 3. 散布回数が多いとギンギンに抵抗性個体が出現しやすいので、ギンギン類に有効な他剤とローテーション防除を行う。 4. 当剤は微量でも高活性なため、消石灰を用いるなど散布後ただちに噴霧機等の洗浄を丁寧に行う（添付説明書の内容厳守）。
	秋期最終刈取後 30 日以内、雑草茎葉散布	ギンギン	バンベラー-D液剤（MDBA ジメチルアミン 50%） 100ml		1. マメ科牧草には強く作用するため、混播草地の場合はスポット処理する。 2. 樹木等の有用広葉植物に飛散しないよう注意する。

作物名等	防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a 当り使用量	使用法	注意事項
牧野、草地（更新・造成）	ワラビ展葉期、雑草茎葉散布又は全面散布	ワラビ	アージラン液剤 (アシュラム 37%) 1000～1500ml	1. 水 80～1000に溶かし噴霧機で散布する。	1. 処理効果は遅く、1～2ヵ月後に現われる。 2. ワラビは石灰施用、あるいは牧草に準じた刈取等でも抑制できる。 3. 降雨前及び露の多い時は散布をさける。
	耕起前まで（雑草生育期）、雑草茎葉散布	一年生及び多年生雑草	〔参考農薬〕 ラウンドアップ マックスロード (グリサートカリウム塩 48%) 200～500ml	1. 水 25～500に希釈して、噴霧機で茎葉散布する。	1. ワラビは、夏期生育盛期に処理する。 2. 雑草の発生量によっては、スポット処理が経済的である。 3. 茎葉全面に均一に付着するように散布する。また、飛散防止にラウンドノズルの使用が望ましい。 4. 散布後 4 時間以内に降雨が予想される場合は散布しない。 5. 他作物に飛散しないよう注意する。 6. 少量散布(水 25～500)では、専用ノズルを使用する。 7. ラウンドアップマックスロードは、魚毒に注意する。
	耕起整地後～は種当日まで（雑草発生揃期）、雑草茎葉散布				
	新播草地定着後(但し、採草 21 日前まで)、雑草茎葉散布又は全面散布	ギシギシ類 (草丈 20cm 以下)	ハーモニー75DF (チフェンスフロメチル 75%) 0.5～1 g	1. 水 1000に溶かし噴霧機で茎葉散布する。	1. 注意事項は牧野、草地（維持・管理）と同じ